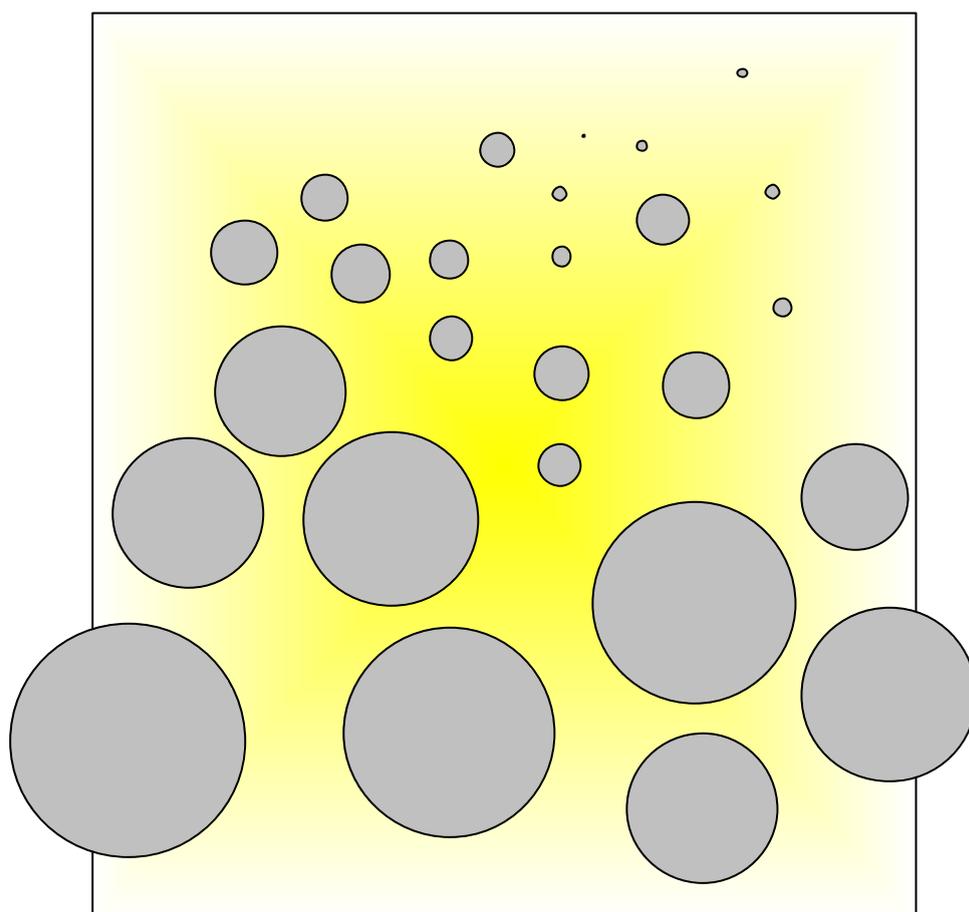


京の子ども、夢・未来

未来デザイン・応援プラン

府立高校改革推進計画（案）

（概要版）



平成14年12月
京都府教育委員会

目 次

はじめに	・・・ 1
1 推進計画の基本的な考え方	
1 - 1 府立高校の教育の在り方	・・・ 2
1 - 2 府立高校改革の基本的な方向性	・・・ 2
2 新しい多様で柔軟な教育システムの構築	
2 - 1 普通科の特色づくりと多様化	・・・ 3
2 - 2 新しい時代に対応した専門学科の充実	・・・ 3
2 - 3 総合学科の今後の展開	・・・ 3
2 - 4 新しいタイプの単位制高校の設置	・・・ 3
2 - 5 中高一貫教育の導入	・・・ 4
3 創意工夫を生かした教育活動の展開	
3 - 1 特色ある教育課程と教育内容の工夫	・・・ 5
3 - 2 教育内容や教育方法の充実	・・・ 5
3 - 3 進路希望の実現に向けた個に応じた指導の推進	・・・ 6
3 - 4 府民の信頼を高める学校づくり	・・・ 6
4 主体的な選択ができる入学者選抜制度への改善	
4 - 1 通学区域の改善	・・・ 8
4 - 2 新しい入学者選抜方法	・・・ 8

はじめに

推進計画の趣旨

今、府立高校は、国際化、情報化、高齢化などの社会の変化、生徒の個性化・多様化の進行、生徒減少に伴う学校の小規模化など多くの課題に直面しています。こうした課題に対応するため、府立高校においては、これまで以上に多様で柔軟な教育システムを築くとともに、高校としての適正な規模や配置を実現することが求められています。

また、21世紀社会は、高度化、複雑化した社会をたくましく生き抜き、様々な分野において主体的、創造的に活躍する人間を求めています。そのため各府立高校では、創意工夫を生かした教育活動を展開して、生徒一人一人の個性と豊かな人間性をはぐくみ、自らの生き方や進路を主体的に切り開くことができる能力や態度を育成することが重要となっています。

府立高校改革推進計画は、こうした課題や社会の要請にこたえるため、今後実施する府立高校改革の基本的な考え方や施策の骨組みを示したものです。

推進計画策定までの経緯

平成12年5月、京都府教育委員会は、今後の府立学校の在り方や改善方策について意見を求めるため、「府立学校の在り方懇話会」を設置しました。懇話会は、以後約2年間の協議を経て、平成14年1月に最終の「まとめ」を発表しました。

また、京都府産業教育審議会においても、平成14年2月に、近年の我が国の情報化の急速な進展への対応について「提言」を発表しました。

京都府教育委員会では、こうした「まとめ」や「提言」などを踏まえ、府立高校の改革の観点を「中学生から選ばれる高校づくり・希望する高校を選べるシステムづくり」及び「活力ある多様な教育活動が展開できる学校規模の適正化・適正配置」としてこれまで様々な検討を重ねてきました。今回の計画は、前者の観点到立った内容を第 部として策定したものです。

推進計画の構成と計画の期間

この計画は、府民の期待にこたえる「新しい多様で柔軟な教育システムの構築」、「創意工夫を生かした教育活動の展開」、「主体的な選択ができる入学者選抜制度への改善」の3項目から構成されています。

なお、この計画に記された施策の実施に関する具体的な計画については、今後10年程度の間複数回に分けて別途策定していくこととしています。

また、「活力ある多様な教育活動が展開できる学校規模の適正化・適正配置」を観点とした計画については、引き続き検討を進め、改めて公表する予定です。

1 推進計画の基本的な考え方

1 - 1 府立高校の教育の在り方

変化の激しい社会に柔軟かつ的確に対応する能力や資質の育成に努めます。

豊かな心を持ち、たくましく生きるなど「生きる力」を育てる教育を進めます。

21世紀社会の諸課題に積極的に取り組み、21世紀社会を主体的に担う人間を育成します。

教育内容、教育方法の創意工夫を進め、学力の充実・向上を図り、生徒一人一人の能力や個性を最大限に伸ばす教育を進めます。

1 - 2 府立高校改革の基本的な方向性

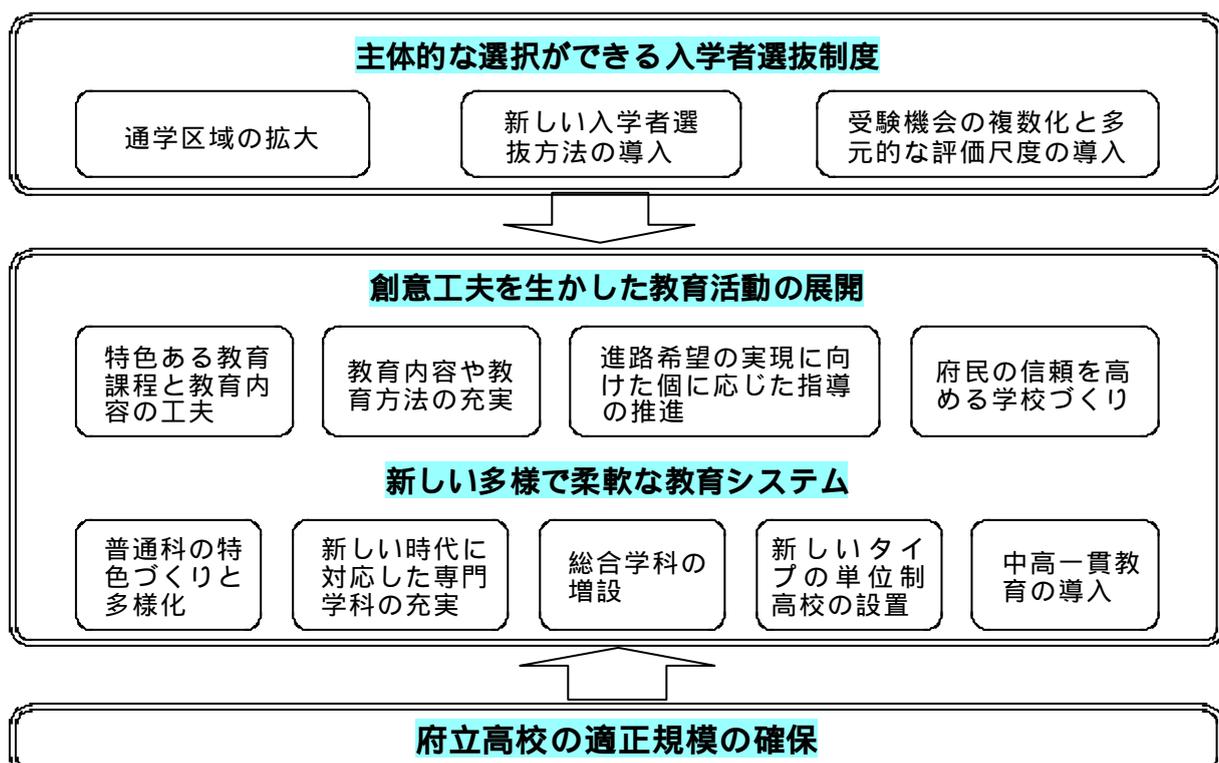
学科などの一層の多様化や履修形態の弾力化を進め、「新しい多様で柔軟な教育システム」を構築します。

教育課程、教育内容の特色化を図り、多様な指導方法を工夫します。

生徒が学校・学科などを主体的に選択できる入学者選抜方法や通学区域を実現します。

生徒数の減少の中で、各高校の教育内容の多様性や、集団の中での人間形成の機会を豊かにすることなどに視点を置き、学校規模の適正化に向けた取組を進める必要があります。

府立高校改革の全体像と施策の展開図



2 新しい多様で柔軟な教育システムの構築

2 - 1 普通科の特色づくりと多様化

類・類型を置く高校では、多様な特色ある類型の設定を進めるほか、類・類型間の移動をより弾力化するなどの運営面の工夫を進めます。

社会の変化や生徒の多様化などの状況を踏まえ、生徒がより幅広い科目の中から選択ができるよう総合選択制や単位制等への転換も進めていきます。

2 - 2 新しい時代に対応した専門学科の充実

社会や産業界の変化・進展に対応し、教育課程の見直しや学科の改編を行います。

高校3年間で各専門分野の基礎的な知識・技術を身に付けさせ、卒業後すぐに実社会で活躍できる力を育てることと併せて、大学等の上級学校への進学を目指す教育課程、教育内容、教育方法の充実を図ります。

特色ある教育を展開する新しいタイプの専門学科の新設を検討していきます。

2 - 3 総合学科の今後の展開

生徒の様々な学習ニーズに対応し、自己の進路への自覚を深め、主体的な学習を促すため、総合学科を増設します。京都府全域から総合学科を選択し通学できるよう、京都府南部地域（京都市・亀岡市以南の地域）に2校ないし3校の総合学科を設置します。また、京都府北部地域にも増設を検討します。

総合学科では、生徒一人一人の学習希望や可能性にこたえる多様な科目と、これらの科目を選ぶ目安として系列が設定されます。総合学科は、単位制の柔軟なシステムにより運営され、適切な科目選択ができるよう各種のガイダンスも行われます。

2 - 4 新しいタイプの単位制高校の設置

新しい多様で柔軟な教育システムを構築するためには、多様化した生徒の様々なニーズに的確に対応する高校を設置することが必要です。

そのため、単位制の柔軟なシステムを活用した、従来の全日制、定時制、通信制の枠を超えた新しいタイプの単位制高校を構想し、設置していきます。

新しいタイプの単位制高校は、様々な生徒がそれぞれの興味・関心、進路希望などに
応じて科目を選択したり、希望する時間帯や時間割で自分のペースに合わせて学習でき
るよう、柔軟なシステムを追求した高校（フレックス・ハイスクール）とします。この
高校では、学校での授業と通信教育を組み合わせた学習もできるものとします。

新しいタイプの単位制高校

新しいタイプの単位制高校（フレックス・ハイスクール）の特長

- 単位制** ... 多様な科目の中から興味・関心、進路希望などに応じて選択し学習
1時間目から最大12時間目までの授業を準備し、生徒それぞれの希望に応
じて学習時間帯を柔軟に選択することが可能
74単位以上で卒業が可能
- 弾力的な単位修得** ... 検定合格、資格取得、ボランティア活動など学校外での学習・活
動を単位として認定
- 転・編入学の弾力化** **生涯学習への対応** **通信教育の活用**

2 - 5 中高一貫教育の導入

中高一貫教育は、生徒の心身の急速な発達段階における精神的・情緒的なゆとりが持
てる、6年間の一貫した教育計画の下での深みのある教育指導ができる、幅広い異年齢
集団により相互に啓発されるなどの長所があります。こうした長所を最大限に生かして
生徒の個性を大きく伸ばしたり、豊かな人間性をはぐくむことが可能となります。

また、地域性を生かした教育、自然や科学への興味・関心を高める教育、国際感覚を
身に付ける教育など、特色ある教育を進めることができます。

既設の府立高校に中学校を併設する形の併設型中高一貫教育校を設けます。また、連
携型などの他の形態の中高一貫教育校の設置も検討していきます。

3 創意工夫を生かした教育活動の展開

3 - 1 特色ある教育課程と教育内容の工夫

各高校は、学科や類・類型などの趣旨や目標、中学生の志望動向、在学する生徒の進路希望、あるいは地域の特色なども踏まえ、それぞれの個性がきらめく特色ある教育課程の編成や教育内容の工夫に努めます。

学校週5日制の下、授業を一層充実させ、校時の組み方や各学期の期間の取り方などを工夫し、授業時間数の確保にも努めます。

3 - 2 教育内容や教育方法の充実

学力の充実・向上と教育方法の多様化

- ・ 一人一人の生徒の学力を充実・向上させ、その能力や個性を最大限に伸ばすことができるよう、基礎・基本の定着を図る教育内容や高度な教育内容、専門的な教育内容を適切に設定します。
- ・ 習熟度別の授業の拡充、インターンシップの充実、大学等との連携、社会人講師の招へいなどを一層進めます。
- ・ 全日制・定時制・通信制の各課程間の併修、大学入学資格検定合格科目や学校外で学習し修得した内容の単位認定など、生徒が単位を修得する方法を多様化させます。

総合的な学習の時間の充実

- ・ 各教科で身に付けた知識や技能を総合的な学習の時間の学習において関連付けさせたり、反対に、総合的な学習の時間で身に付けた力を各教科の学習の中で生かしたりするなど、教科の学習との相互関連を重視します。
- ・ 特色ある学習内容や多様な学習方法を積極的に導入することにより、総合的な学習の時間を高校が特色を発揮するためのステージとしていきます。

教科「情報」の指導の充実

- ・ すべての生徒を対象に、情報を正しく認識し活用していく能力やモラルを高める教育を積極的に進めます。

- ・ 専門学科においては、平成15年度に開設する京都すばる高校情報科学科を府立高校の情報教育の中核に位置付け、ここで専門的な情報技術者の育成を図ります。他の専門学科においても、それぞれの分野における実践的な情報活用能力を一層高めることをねらいとして、教育内容や教育方法を充実していきます。

3 - 3 進路希望の実現に向けた個に応じた指導の推進

個に応じた指導の推進

- ・ 各高校においては、進路希望の実現に向け、個に応じた指導を推進し、学力の充実・向上に取り組めます。このため、生徒一人一人の学力をその習熟度に応じて高めるよう、補習や学習合宿などの取組を更に推進したり、生徒の進路の明確化を促し、進路希望に沿った適切な講座選択が行われるようガイダンス機能を充実したりします。

学校不適應の解消に向けた指導体制の充実

- ・ 中途退学など様々な学校不適應の分析を進め、組織的な指導体制の充実を図り、学校不適應の解消に向けた取組を進めます。

3 - 4 府民の信頼を高める学校づくり

改革を推進する校長のリーダーシップ

- ・ 特色ある学校づくりを推進するためには、校長が改革・改善の方針や学校の経営方針を教職員に明確に提示するとともに、校長主導の組織的な学校運営を確立することが重要です。教職員の積極的な力を引き出す校長の強力なリーダーシップが求められます。

確かな指導力と意欲ある教員の養成

- ・ 教員の研修の改善・充実を図り、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性を基盤とした実践的指導力の向上に努めます。
- ・ 新しい表彰制度により、意欲と情熱を持って熱心に取り組む教職員への支援を行います。
- ・ 教員の評価制度など、教員の資質を高める新しい人事管理システムを導入します。

教育条件の整備

- ・ 安心で安全な学習環境の整備や、特色ある多様な教育を円滑に進めるために必要な施設整備などを、順次計画的に行っていきます。

保護者や地域の方々の意向を踏まえた学校運営

- ・ 学校評議員の意見や助言を的確に反映した学校運営を進めます。
- ・ 学校の教育活動や運営に関する自己評価を行い、学校の情報を保護者や地域の方々に具体的に示し、学校としての説明責任をしっかりと果たす取組を進めます。

地域社会と連携した教育活動の展開

- ・ 地域の人材を社会人講師として招いたり、施設開放によって府民の生涯学習ニーズへの対応を図るほか、地域の特性を生かしたり、地域の方々の参加・協力を得た教育活動を展開し、学校と地域社会の連携を一層深めます。

4 主体的な選択ができる入学者選抜制度への改善

4 - 1 通学区域の改善

府立高校の通学区域は、公共交通機関の利便性等の通学条件、中学校卒業生数の動向や志望動向、地域の状況、受験機会の地域間の均衡などに配慮し、関係市町村教育委員会の意見も聞き、より多くの特色ある学校・学科の中から生徒が行きたい高校を主体的に選択できるように改善を進めていきます。

全日制普通科における通学圏については、山城北・山城南通学圏の統合を進め、生徒がより多様な高校を選択できるようにします。

京都市・乙訓地域の4通学圏については、生徒がより多様な高校を選択できるよう見直しの検討を進めます。

口丹通学圏、中丹通学圏及び丹後通学圏については、通学圏間や通学圏内の各高校の学区間の調整を行い、生徒がより多様な高校を選択できるようにします。

全日制的専門学科や総合学科の通学区域は、原則として府内全域を通学区域とすることに向けて、順次改善します。

また、通学区域の再編成後も、その後の生徒の志望状況などを踏まえ、一層学校選択の幅が広がる通学区域を実現するよう、引き続き検討を進めます。

4 - 2 新しい入学者選抜方法

生徒が希望する高校を主体的に選択できる選抜方法への改善

今後の選抜方法は、これまで以上に希望する高校を選択できる方法へと改善する方向で検討を進めます。

< 主な検討事項 >

- ・ 全日制普通科における現行総合選抜の改善（単独選抜、希望枠の拡大など）
- ・ 各学校の特色にふさわしい選抜方法の工夫
- ・ 生徒の志望動向を踏まえた類・類型別募集の工夫

受験機会の複数化

生徒の学校選択の機会を広げ、生徒が主体的に進路選択できるようにするため、受験機会を複数化する方向で検討を進めます。

< 主な検討事項 >

- ・ 前期・中期・後期選抜

より多元的な評価尺度を取り入れた選抜方法の導入

学科、系統、類・類型や履修形態の多様化・特色化が進んでいくことに伴い、生徒の多様な能力・適性、興味・関心などを適切に評価する選抜方法を取り入れることが必要です。受験機会の複数化と合わせ、より多元的な評価尺度を導入する方向で検討を進めます。

< 主な検討事項 >

- ・ 学力検査と報告書の比重の弾力化
- ・ 学力検査と報告書における教科間の傾斜配点
- ・ 自己申告書の活用
- ・ 学校作成の学力検査問題の使用

様々に配慮した特別選抜の充実

志願者の状況を踏まえ、新たな特別選抜について検討を進めます。

< 主な検討事項 >

- ・ 不登校経験者や長期に渡る欠席生徒に係る特別選抜
- ・ 日本語にハンディキャップのある外国籍の生徒のための特別選抜

わかりやすく透明性の高い選抜方法と合否判定方法

選抜方法や合否の判定方法などが、よりわかりやすく、透明性の高いものとなるよう改善する方向で検討を進めるとともに、選抜制度全般について、中学生、保護者、中学校関係者にわかりやすく説明したり、選抜に関するホームページを充実したりするなど、積極的に広報を行っていくよう努めていきます。

< 主な検討事項 >

- ・ 学力検査の得点の簡易開示制度の実施